



抗クロウディン4抗体による 癌化学療法の増強

國安 弘基 Hiroki Kuniyasu

分子病理学／教授

■キーワード 癌、タイト・ジャンクション蛋白、抗がん剤治療

基礎

シーズ概要

クロウディン (Claudin) は、タイトジャンクションタンパクで腫瘍微小環境にバリアー形成する。クロウディン4は、多くのがんで高発現し、癌診断や癌治療における創薬標的として注目される。私たちが作製した抗クロウディン4モノクローナル抗体 (4D3) は、現在実用化されている唯一の標的化可能な抗体である。この抗体は、単独でも殺細胞効果を示すが、抗がん剤との併用で抗腫瘍作用の上乗せを示し、抗癌剤の増感剤として期待される。

研究成果の応用可能性

上皮系悪性腫瘍に広く発現しているクロウディン4は分子標的に非常に適しているが、これまで細胞外ドメインを認識する抗体が実用化されておらず、分子標的治療が困難であった。われわれは、新規に作成した抗体によりこのハードルを超えることに成功した。本抗体は5FUやシスプラチンなどの頻用される化学療法剤との併用で良好な抗腫瘍作用増強効果を示しており、動物への副作用も認められていない。高い応用性があるシーズと見なされる。

Appeal Point

アピールポイント

抗体－化学療法、抗体－免疫療法、抗体修飾、ドーマント癌細胞標的治療などへの応用を行うパートナーを求めています

関連文献／特許

- 1.Hashimoto Y他：Ann N Y Acad Sci. 2017;
- 2.Kuwada M他：Cancer Lett. 2015.
- 1.特願2013-40211